

ガジェヴの新境地、シューベルトの歌。
ショパン国際コンクールで聴き手の心をあれほどに
つかんだショパンのバラード。
そしてガジェヴが愛してやまない作曲家、
プロコフィエフへの愛が炸裂する一夜!

シューベルトとプロコフィエフの音楽は、意外にも相性が抜群!と僕はかねてから考えていました。いずれも力強いイリリズム(抒情性)を持ち味とし、多彩な陰影や表情をきかせます。さらに、確固たる存在感を示す“舞踊”が、重厚な情感に軽やかな気分を添えています。

僕にとって、プロコフィエフは最も色彩豊かな作曲家です。彼は、さまざまな要素を、誰も思いつかないような斬新な切り口でひとつにまとめ上げます。だからこそ彼の音楽は、つねに新鮮で、意表をつく組み合わせに富んでいるのです。ピアノ・ソナタ第7番「戦争ソナタ」は、目覚ましいリズム、美しいイリリズム、独特な和声感の特長とする傑作。僕が愛してやまない作品です。

皆さま、ぜひ聴きにいらしてください。



アレクサンダー・ガジェヴ
Alexander Gadjeff

アレクサンダー・ガジェヴ

Alexander Gadjeff, Piano

2021年10月、第18回ショパン国際コンクールで第2位及び
ツィメルマン賞(ソナタ最優秀演奏賞)を受賞。同年7月にはシド
ニー国際コンクールで優勝。それ以前も2018年にモンテカルロ
のワールド・ピアノ・マスターズで優勝し、2015年には浜松国際
コンクールで優勝および聴衆賞を受賞している。

多様な人々・文化・言語がごく自然に交差しているイタリアの
ゴリツィアで生まれ、音楽と中央ヨーロッパの文化に囲まれた
幼少期はガジェヴの歩みを決定づける。父に師事し、9歳で
オーケストラと初共演、10歳で初リサイタルを開いた。2013年、
17歳でイタリアの教育機関で最高評価を得た若手だけが競う
「プレミオ・ヴェネツィア」での覇者となった後、出場するコンク
ールではほぼすべて優勝。2023年にはイタリアの権威あるアッ
バーティ賞と、スロベニアのプレシェレン賞を受賞。そして
2023/24年からUnione Musicaleのアーティスト・イン・レジデ
ンスを、また「ノヴァ・ゴリツァ/ゴリツィア欧州文化首都2025」の文
化大使を務める。

これまでルイージ指揮/RAI 国立響、ゲルギエフ指揮/マリ
insky劇場管、メータ指揮/フィレンツェ五月音楽祭管をはじめ、
指揮者ではテミルカーノフ、ヴィット、井上道義、高関健、
広上淳一、山田和樹らと共演している。今年6月のウィーン楽友
協会でのスロベニア・フィルとの共演も大成功に終わった。2024
年からは毎年ロンドンのウィグモアホールでリサイタルを行う。
ヴェルビエ音楽祭、オールドバラ音楽祭などにも参加している。

アレクサンダー・ガジェヴ ニューアルバム発売決定!

『伝説/ムソルグスキー:展覧会の絵ほか』

ドビュッシー:沈める寺(前奏曲第1巻)
フランク:前奏曲、フーガと変奏 Op.18
リスト:葬送(詩的で宗教的な調べ)
プロコフィエフ:伝説 Op.12-6

スクリャービン:ピアノ・ソナタ第9番「黒ミサ」Op.68
エチュード Op.8-12
バッハ/ジロティ:前奏曲 ロ短調
アレクサンダー・ガジェヴ(ピアノ)

録音:2024年12月/ NYCX-10547 8月22日発売予定 輸入・販売元:ナクソス・ジャパン



© Vitoria Nazarova